

## 蝉しぐれの 世屋の里から

7月2日(日)に「草刈りワークショップ&里山案内人講座」が開催されました。今回の里山案内人講座のテーマは里山の「放置竹林」。講師には、京都大学大学院の柴田昌三先生をお迎えしました。前日の1日(土)には世屋地区公民館において、柴田先生による講演会が行われました。以下はその報告です。

「なんで竹は悪者になったのか、竹をもう一度見直しませんか？」

梅本悦二

昨年は有害鳥獣、そして今年は放置竹林。やはり地域の皆さんはどう対処すればいいのか悩んでおられ関心をもって参加して下さいました。

早速、先生は「貴重な資源として有効活用されている海外の竹事情」を映写して見せられた。中国では日本の杉産地のように山々全体が竹林。竹のないヨーロッパでは庭園観賞として。東南アジアと同じようにコロンビアなど南米においても竹が建築的にも活用されていました。

私の実家の蔵にあった資料によれば、昭和9年頃この世屋においても竹が売買(貴重な収入源)されており様々な形で使用されていました。漁礁などの浮き、桶の輪、籠、土壁下地、樋、稲木、物干竿、茶道具や物差しや傘の柄など生活にかかせない様々な部分で使われていました。



しかし昭和30年頃からプラスチック製品の普及や中国からの生産輸入で国内竹の消費が急激に落ちて行きました。さらに高齢化などによる農耕地の放棄、松食い虫や酸性雨で弱った林などが瞬く間に竹林となり、地域景観が様変わりし集落全体が竹に飲み込まれような危機感があります。

竹は大きくマダケ・ハチク・モウソウの3つに分けられ、中でもモウソウは中国からの帰化植物でおおぶり、広葉樹などを駆逐し精力的に拡大を続けています。マダケは100年で枯れるといわれているが、切っても生える生命力があり、竹を根絶やす特効薬は今だ分からないとのこと。

竹林を(1)管理竹林(たけのこや活用する竹林)(2)放置竹林(管理放棄された竹林)(3)拡大竹林(農耕放棄された水田などが竹林化した)の3つに分類しそれぞれを見直し対処することが重要だとのこと。確かに竹を使わない上に、集落際の田畑が耕作放棄され、そこに竹が忍び込んできて手がつけられなくなっているのが現状だ。親が亡くなり都会に住む子供らが所有している土地が増えてさわりにくさが災いしているが、有害鳥獣と同じく地域が一体となり対策を共有しなければ解決の道はないと思う。京都と大阪の境にある大山崎の山頂に拡大している竹林を、サントリーの職員がタケノコの段階で日がな一日蹴り倒した、ということを実は笑えない話として聞いた。

タケノコが毎日食卓にあがりだした時に作った句を思い出した。

蹴折るしか 仕方なしやな 旬の筍

京都洛西とまでいかないものの、日が射し風を感じられるような竹林であってほしい。「手をかけるとか、あるものを使う」という自然な考えを先生は教えて下さったのだと思います。

続いて、「草刈りワークショップ&里山案内人講座」

当日の報告です。今回は、2名から届きました。

### 京都府立大学大学院 彦田祥子

雨の予報が見事に外れ、太陽まで出てきた。今日は地元でリクエストのあった場所の草刈り作業である。私はそのうちの1つ、小学校に上がる階段を担当した。地元の方と立命館の学生さんたちと一緒に、まるで丘にしか見えないほどに草、草、草に覆われた階段を、一段一段丁寧に、鎌で刈っていく。



周囲から草が伸びて階段を覆ってしまっているのだばかり思っていたら、階段に土がしっかりと張り付いており、その薄い土にびっしりと根を張ってたくさんの草がひしめき合っているのがびっくりした。だから、刈るというよりも(土を)はがす、といった感じだった。当然ながらムカデや太いミミズがたくさん出てきて初めは「うっ」と思ったが、作業が進むにつれてだんだんもとの階段が顔を出してくると、もっとがんばろうと思った。最後には参加した全員で集合写真を撮れるほどにきれいになった階段が、草の生命力に負けないでしばらくは維持されてほしい。



昼からは、柴田先生による里山案内講座(タケのお話)で、ハチク、マダケ、モウソウチクの見分け方やササ葺き屋根に使うチマキザサの選び方を教えてもらい、また、タケのおいしい部分をみんなで実食した。私は普段、竹林拡大の問題は耳にしているけど、タケはタケ、といった感じで種類の違いや特性などを特に注意して考えることがないので、ほとんど知らないことだらけだった。これからはきっと、タケを見つけたら無意識にまず節を数えて「これはマダケ!」と判別してしまいそうな気がする。タケという普段とは違った観点から世屋の自然を考えることができ、有意義な午後を過ごせたと思う。



## 草刈作業と里山の「竹」

河嶋 英一

7月2日(日)、上世屋の日置中学校世屋上分校跡で、私達の「里山ネットワーク世屋」とNPO「美しいふるさとを創る会」、ささぶき古民家の再生を行う立命館大学の「丹後村おこし開発チーム」などが、地元の住民の方々とともに、荒れ放題になっていた学校正面の石段やのり面などの草刈作業を実施しました。

正面石段の草刈では、草の根が10~15センチほどの厚さで張り巡らされており、かなり以前から手がつけられていない状態でした。鎌だけでは作業が進まなくて、鍬、スコップ、牧場で使っているようなフォーク、レーキを使っての作業となりました。作業が進むに従って、石段がだんだんと広がっていき、石段の上や下の方から、頑固な草の根と勝負する掛け声が聞こえてきました。



～草刈整備後の学校正面石段～

お昼は、世屋高原家族旅行村へ移動して、地元の方たちから差し入れしていただいた、おにぎりや缶ビールをいただきながら、参加者同士で交流を行いました。

午後は、毎回楽しみにしています里山案内人講座で、今回のテーマは「竹」についてです。上世屋の集落内を歩きながら、京都大学の柴田昌三先生にお話をいただきました。

上世屋を流れる川の中に、実際に竹パイプ（孟宗竹のようでした）が使われていました。鉄パイプが無い時代には、都でも上下水道などに、竹パイプ（孟宗竹）



～畑のキュウリに真竹の手が～

が使われていたようですが、寿命は2年位だそうです。

集落よりも少し高台に矢竹（ヤダケ）が見えました。矢竹は弓矢の矢に使われる竹で、昔は、僧兵を抱えていたお寺や武家屋敷に植えてあったということです。上世屋でもその場所は、どうやら城跡のようだったということでした。京丹後市の私の住んでいるところでは、矢竹のことを「シノブダケ」と言っています。

集落内の畑のキュウリに、真竹の枝がついた手がしてありました。「これはツルがからみやすいからなのか？」とか「邪魔くさくて枝が残してある？」とか話が出ていましたが、「アサガオには枝がいらないだろうし、ヒゲがあるものは、枝があった方がよいのでは?」、「トマトには、穴が開いたらこまるので枝がじゃまになる」など面白い話が出ました。

途中、真竹のタケノコを採って生で食べましたが、何とも苦い。別名は苦竹（ニガタケ）と先生にお聞きし、納得していました。

笹葺屋根の葺き替えをするなら、葺き替えに使うチマキザサは、一年前に刈り取りをして、新しいチマキザサが生える準備をしておかないと、使える笹が取れないということです。チマキザサは、冬、雪の下で倒れている間に、途中から上を向いた枝が出てきて、屋根を葺くには都合の悪い笹になってしまうので、冬を越さない1年までのチマキザサが必要だということです。

里山の自然について、上世屋を歩きながら考えることができた一日でした。

## ♪♪♪ お知らせ ♪♪♪

### ♪ 8月5日(土)に「世屋川の探検～龍ヶ壺をめざして～」を行います。

地元の人でも踏み入れたことのないという川を、植生や地質、魚を見ながら「探検」して歩きます。

●講師及び案内人：梅本悦二氏（地元のナビゲーター）、三好岩生先生（河川環境の専門家）、松村文雄氏（沢登りの達人）

●持ち物：濡れてもいい服装（露出の少ないもの）、すべりにくい靴（川の中も歩きます）、軍手、雨具、昼食 等

●集合時間・場所：午前10時 下世屋地区公民館前

●問い合わせ・申し込み先：梅本さん（電話&FAX 0772-27-0091）

★必ず事前にお申し込みをお願いします。雨天中止の場合は、参加申し込み者に連絡をします。

### # 9月3日(日)に「柿をめぐる地域文化を学ぶワークショップ」を行います。

上世屋在住の小川達雄さん・千鶴子さんご夫婦を講師に迎えて、上世屋地区に伝わる柿渋づくりと「はりこ」製作を体験します。本来、柿渋の完成には数日かかります。そのため、このワークショップでは柿の木から実を採取して柿渋を仕込む体験と、あらかじめ作っておいた柿渋を使った「はりこ」（※かごなどの生活道具に渋紙を張ること、又は張った道具）の体験を予定しています。仕込んだ柿渋は持ち帰ることもできますのでお楽しみに♪

#### ●タイムスケジュール

10時～10時5分 インTRODakション・・・①農村の生活と柿渋の関わりの説明（府立大院・藤井咲紀）  
②柿渋を作る工程の大まかな説明（小川達雄さん・千鶴子さん）

10時5分～12時 柿渋づくり

12時～13時 お昼ごはん

13時～15時 はりこ製作

●服装・持ち物：汚れてもいい服装、古いエプロン、軍手、ゴム手袋、昼食 等

●参加費：1000円（柿渋作品のおみやげ付き）

●集合場所：午前10時 ぶーたん（上世屋バス停のそば）

※ワークショップの場所はぶーたん前の広場です。

●問い合わせ・申し込み先：深町さん（電話/FAX：075-703-5436, e-mail：fukamachik@kpu.ac.jp）までお願いします。

★必ず事前にお申し込みをお願いします。